

3' - TTCTGGCAGTGA - 5' 鋳型鎖の配列



5' - AAGACCGTCACT - 3' 相補鎖の配列

### 図1.6 サンガー法（ジデオキシ法）による塩基配列決定例

相補鎖側のDNA合成が行われるので、DNAポリメラーゼの伸長方向（5'→3'）は左から右になる。四角内は、ジデオキシ法の結果として得られた1塩基ずつ異なるDNA断片群である。太字はddNTPが結合してシーケンス反応が止まった塩基を表している。四角内の右側からスタートして電気泳動を行うと、断片長の短いものほど早く左に移動する。結果として、移動先である太字の位置に相当する場所でもっともシグナル強度の高い塩基をコールした結果が相補鎖の配列となり、さらにその相補鎖に相当する鋳型鎖の情報が得られる。ここでは後述するプライマーの情報は示していない。